

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～
平成29年(2017年)度評価表

評価の区分
A 目標を上回る成果をあげた
B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった
D 目標には遠く及ばなかった

使命 県立歴史館は、長野県の歴史に関する調査研究に基礎をおきながら、埋蔵文化財(考古資料)、歴史的価値ある文書等の歴史資料の収集・整理・保存を通じて、県民の歴史遺産を子孫に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、未来を展望し、また学び、憩い、交流する場としての役割を果たします。

| 基本目標 | 基本目標に対する取組 | 主な事業及び目標値 | 達成値 | 自己評価 | 利用者評価 (アンケートで寄せられた意見) | 協議会評価 | 備考 |
|----------------------------|--------------------------------|--|--|------|--|-------|---|
| 長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします | 埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集し、調査研究を行います | ○ H30年度企画展の資料調査 ・ 各企画展の基本設計・実施設計の作成 ・ 展示資料の確定 | ・ 夏季企画展「君は河童をみたか」、秋季企画展「最古の信州ブランド黒曜石」、冬季展「田淵行男」の資料調査および基本設計を作成した。 ・ 各企画展の展示資料を確定した。 | B | — | A | |
| | | ○ 巡回展、遺跡発掘2018、2019の資料調査、共催機関との打ち合わせ ・ 各連携機関と企画・テーマをすりあわせ、広報等の充実を図る。打ち合わせは各連携機関とも年5回程度実施 ・ 1ヶ月開催で来館者約1,000人を目指す | ・ 市町村教育委員会、埋蔵文化財センターと共同して調査を進めるとともに、テーマ展示として「黒曜石」と「象嵌装大刀」の調査研究を行った。 ・ H30年度開催予定の秋季企画展「黒曜石」に関わる下準備となる調査を行うことができ、今年度はそのプレ展示となった。 ※「平成29年巡回展」を開催。 歴史館 3月18日～6月25日(75日間:12,066人) 南信会場 7月29日～8月20日(20日間:1,146人) 中信会場 8月26日～9月24日(26日間:944人) 東信会場 9月30日～11月26日(48日間:955人) 満足度80% | B | ・ テーマ展示、速報展示ともよかった。 ・ 館外会場においては、毎年巡回展を楽しみにしているとの意見が多い。 ・ 館外会場については、地域の資料も展示してもらいたいとの意見がある。(平成30年度にはこの意見を生かした。) | B | |
| | | ○ 文書史料の収集・整理・保存 ◇ 行政文書、県報、行政資料 ・ 新規収集資料(年間約数百冊)の選別・収集の完了 ・ 県報、行政資料の整理(年間約300冊) ・ 未整理行政文書の整理を進める。 公開・非公開判定、金属除去など装備整理、所蔵資料の再確認(目録照合・修正) | (年報:P78) ◇ 行政文書、県報、行政資料 ・ 新規収集資料の選別・収集の完了 行政簿冊279冊、県報130件、行政資料985点 ・ 県報、行政資料の整理 県報130件、行政資料985点 ・ 未整理行政文書の整理を進める。 行政文書の金属除去等装備整理 3,473点 行政文書の公開非公開判定の実施 804冊 行政文書の目録作成 242冊 所蔵資料の再確認(目録照合・修正) | B | — | B | |
| | | ◇ 古文書 ・ 新規史料の収集(前年度約3500点) ・ 未整理史料の整理を進める 年度当初未整理史料 約5万点(年間5,000点) | ◇ 古文書 ・ 新規史料の収集 23件(10,075点 概数分含む) ・ 未整理資料の整理を進めた 整理・公開 50件 7,669点 | A | — | A | |
| | | ○ 考古資料の保存処理 ・ 収納木製品の保存処理(1,000ポイント)(PEG槽へ投入、濃度アップ、取り上げそれぞれ1回の作業を1ポイント扱いとして換算) ・ 写真資料の保存(フィルムのデジタルデータ化)は35ミリポジフィルム年間20,000枚を実施する(5年で10万枚予定) ・ 金属製品に関しては依頼に対応する | ・ 収納木製品の保存処理 1,600ポイント ・ 写真資料の保存(デジタル化) 1,100枚 高画質のデジタル化により1枚あたりの単価が高くなってしまった。 ・ 金属製品の依頼対応 100%対応 | A | — | A | |
| | | ○ 巡回展の資料調査 ・ 巡回展「黒曜石の文化」の資料調査 ・ 巡回展「黒曜石の文化」の資料調査 | ・ 巡回展「黒曜石の文化」の資料調査 ・ 巡回展「黒曜石の文化」の資料調査 | D | — | D | |
| | | ○ 館設定研究テーマの調査・研究 ・ 市町村教育委員会と黒曜石研究会を実施する。 テーマ「信州黒曜石文化の研究」 回数 2回 内容 黒曜石原産地とそれに関わる遺跡の実態解明 成果展示 H30年企画展にて展示 H31年以降、関連市町村での巡回展示 ・ 市町村教育委員会と城郭・城下町研究会を年2回実施し、県外研究者との意見交換を行う。 | ・ 「信州黒曜石文化研究会」を2回開催 研究成果をH30の秋季企画展で展示、公開することとした。 ・ 「黒曜石原産地保有市町村等連絡協議会(県教委文化財・生涯学習課)」と「黒曜石フォーラム会議(明治大学)」に参加し、共同研究の提案と意見交換を行った。 ・ 「長野県近世城郭・城下町研究会」を2回開催 10月 県内所在城郭の調査研究成果の発表 松本城関連の発掘現場の見学 3月 今後の研究活動についての意見聴取 | A | — | A | |
| | | ○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・ 依頼事項の90%以上 | (年報:P77) ・ 赤外線観察=4件(12点) X線透過観察=6件(72点) 依頼100%対応 ・ 松田館火災に伴う松田家資料の救出作業協力 考古学的な手法を活用し、計画的な資料救出が実践できた。 救出作業 2日実施(当館職員参加者数 延べ16人) | A | — | A | |
| | | ○ 史資料保存活用講習会の開催 ・ 開催3回 参加者60人 ○ 考古資料保存処理講習会の開催 ・ 開催1回 参加者20人 | (年報:P55) ・ 3回開催 参加者数123人 (年報:P54) ・ 1回開催 参加者23人 満足度100% | A | — | A | ・ 実践的な研修も含まれ有意義だった。仕事の中で実践できる内容もありよかった。 |
| | | ○ (新)防災・災害の対応 ・ 事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を進める。 | (年報:P55) ・ 第2回史資料保存活用講習会で「災害と資料保全」をテーマに取り上げ、県内外の報告を行った。 | A | — | A | |
| 未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします | 長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します | ○ 常設展の工夫 ・ 関係機関との連携 信州大学工学部、繊維学部 ・ 観覧者数 前年並み ・ 満足度 80% | (年報:P17、18～28) ・ ビーコンによる展示解説の実証実験 (信州大学工学部) 期間 9月20日～3月29日 利用者数 28名 観覧者数 37,720人 (H28 39,850人、前年度比 94.7%) 満足度 93.2% | B | ・ ナウマンゾウがお休みで残念→H30年度はじめに修理 ・ 体験できる場所を増やしてほしい。 ・ 屋外展示を充実してほしい。 ・ 室町・近世・近現代の展示をもっと増やしてほしい。 ・ もっと子どもが楽しめる場所を増やしてほしい。 ・ 映像が古い。 ・ 二回目以降も楽しめる展示にしてください。 ・ 職員が楽しかった、よかったなど(多数) | B | |
| | | ○ 企画展の開催 ・ 観覧者数 前年並み ・ 満足度 80% | (年報:P29～38) ・ 観覧者数 25,780人 (H28 32,199人 前年度比 80.1%) 満足度 93.4%(H28 91.5%) ※企画展等別 ・ 巡回展「長野県の遺跡発掘2017」(4/1～6/25) 75日 12,066人 満足度 90.6% ・ 夏季企画展「長野県誕生!～公文書・古文書から読みとく～」(7/8～8/28) 46日 3,089人 満足度 88.4% ・ 秋季企画展「進化する縄文土器～流れるもよう」と区画もよう～(9/16～11/26) 61日 7,727人 満足度 96.6% ・ 冬季展「田中芳男-「虫捕御用」の明治維新」(12/16～2/25) 54日 2,292人 満足度 96.6% ・ 巡回展「長野県の遺跡発掘2018」(3/17～3/31) 27日 606人 満足度 90.1% | A | ・ 企画展を信濃美術館でもやってほしい。 ・ 使い方のイラストなど、もう少しわかりやすく、関心が持てるような説明、記載をのぞむ(巡回展・夏季展) ・ 展示品が少なく期待外れ(巡回展) ・ クイズは楽しかったので、もっと続けてください。(巡回展) ・ 非常に興味ある内容で満足しました。地元に住ながら長野県が誕生する経緯を知らなかった。(夏季展) ・ 解説パネルは図を用いており、大変分かり易かった。(夏季展) ・ 史料の文字が小さく見にくいのでキャプションだけ読みに来たようになってしまった。(夏季展) ・ 山間部と海岸部の違いやそれぞれの移り変わりが見られたのが良かった。(秋季展) ・ 縄文土器がこれほどまでに感動的とは。解説の文もユニークで分かりやすい。(秋季展) ・ 庶民の生活に根ざした人物や活動を取り上げた企画展をこれからもお願いします。(冬季展) ・ 小品ながら非常にいい展示でした。学芸員の方の力がすばらしい。(冬季展) | A | |
| | | ○ 個別研究の実施 ・ 学芸部職員 1人1研究 | (年報:P73・74) ・ 学芸研究会での研究発表(18件) (年報:P70・71) ・ 研究紀要、ブックレット、歴史館版信州学などの執筆のための調査・研究を実施 内訳 研究紀要11件 ブックレット35件 歴史館版信州学 27件 | A | — | A | |
| | | ○ (新)親子歴史ふれあいコーナーの設置準備 ・ コーナーの基本構想を設定、展示室内のレイアウト案を策定する | ・ 福井県や山梨県等の博物館視察等を通して基本構想を検討し、展示業者の協力を得てレイアウト案を策定した。 | B | — | A | |
| | | | | | | | |

| 基本目標 | 基本目標に対する取組 | 主な事業及び目標値 | 達成値 | 自己評価 | 利用者評価 (アンケートで寄せられた意見) | 協議会評価 | 備考 | |
|-------------------------|--|--|-----|---|--------------------------|-------|----|--|
| 県民の生涯学習を支援します | ○ 古文書講座の開催 ・ 開催25回 受講者900人 ・ 満足度 80% ○ (新)ティーンズ古文書講座の開催 ・ 開催4回 受講者40人 ・ 満足度 80% ○ 考古学講座の開催、探訪会の実施 ・ 講座 開催4回 受講者200人 ・ 探訪会 実施1回 参加者40人 ・ 満足度 80% ○ やさしい信濃の歴史講座の開催 ・ 開催5回 受講者750人 ・ 満足度 80% ○ 歴史館ふるさと講座(テーマ「災害」)の開催 ・ 開催7回 受講者700人 ・ 満足度 80% ○ 企画展・季節展等講演会の開催 ・ 開催5回 受講者500人 ・ 満足度 80% | (年報:P50) ・ 25回開催 受講者 延べ874人(197人) 講座出席率 88.7% 満足度 98 % | B | ・江戸時代の両替ルートや暦など基本的な文書の理解に必要なことについて楽しく解説していただきよかった。 ・背景まで丁寧に説明していただきよく理解できた。 ・中世について学ぶことができてとても楽しかったです。 ・家になる古文書を読みたいと思います。 ・庶民のくらしや寺子屋での生活が垣間見えて当時の人の気持ちを感得しているようでした。 | B | | | |
| | | (年報:P52) ・ 4回開催 受講者 延べ75人(19人) 講座出席率 99% 満足度 100 % | A | ・考古学講座については、おおむね好評であった。ただし特に毎回講義での照明やパワーポイントの見やすさなどにご意見をいただいた。 ・平成29年度の遺跡探訪会(埼玉県埼玉古墳群、群馬県保原古墳群)については、午前1見学、午後1見学とゆとりがありよかった。また長野県内の古墳とはまったく様相を異にした古墳を見学でき良かった。 | A | | | |
| | | (年報:P50) ・ 考古学講座 4回開催(受講者数345人) ・ 探訪会 1回(参加者数42人) 満足度 95% | A | ・考古学講座については、おおむね好評であった。ただし特に毎回講義での照明やパワーポイントの見やすさなどにご意見をいただいた。 ・平成29年度の遺跡探訪会(埼玉県埼玉古墳群、群馬県保原古墳群)については、午前1見学、午後1見学とゆとりがありよかった。また長野県内の古墳とはまったく様相を異にした古墳を見学でき良かった。 | A | | | |
| | | (年報:P49) ・ 7回開催 受講者925人 満足度 93.1% | A | ・持ち時間が短い。深く考察した講座にしてほしい。 ・冬季なので、13:00からの開始にしてほしい。 ・資料をHP等で公開してほしい。 ・たくさんの講座があって厳しい冬は楽しく過ごしました。 | A | | | |
| | | (年報:P53) ・ 5回開催 受講者数883人 満足度 89.4% | A | ・歴史を学ぶことによって過去の災害を検証し、今後に役立てることの重要性を感じた(各回多数)。 ・配布資料の文字などが不鮮明で残念。資料をカラーにしてほしい。 | A | | | |
| | | (年報:P31~35、47・48) ・ 夏季企画展 講演会1回、講座1回、イベント1回 受講者計309名 講演会・講座 満足度 92.4% ・ 秋季企画展 講演会1回、講座5回、イベント4回、 ギャラリートーク2回 受講者計885名 講演会・トークセッション 満足度 91.3% ・ 冬季展 講演会2回、講座1回、イベント1回 受講者計497名 講演会・講座 満足度 95.4% | A | ・これまで分かりずらかった明治前期の変遷が理解できました。(夏季展) ・長野県誕生の切口が斬新で、知的好奇心を大いに刺激されました。(夏季展) ・鳥肌が立つほどおもしろい。(夏季展) ・とても興味深いお話で、面白かったです。(秋季展) ・資料が見つらく残念でした。(秋季展) ・縄文時代の芸術的な思考が理解できました。(秋季展) ・テーマが絞られたことで理解し易くなった。(秋季展) ・田中芳男の人物像、業績、あまりに知名度が低すぎる。好企画である。(冬季展) ・時代を描く一つの切り口として面白かった。(冬季展) ・身近な偉人たちの発掘、そして伝えることのごさ、研究に頭が下がります。(冬季展) | A | | | |
| | | ・ブックレットの刊行 ・ 年1冊の刊行 | B | ・ブックレット24号「みち」を刊行 | B | — | A | |
| | | ○ (新)信州学テキストの刊行 ・ 年1冊の刊行 | B | ・『信州を学ぶ 足元を探る編 日常生活からひとく信州』3月刊行 | B | — | A | |
| 未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします | ○ 関係機関との連携 ・ 飯田市美術館(飯田市)、豊科郷土博物館(安曇野市)との連携した講座を開催する(年3回)。 ・ 考古学セミナー(県考古学会共催)1回 ・ 近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催)1回 ・ 県博物館協議会HPは本年度運用1年目。一般アクセス年間20,000件。 ○ 出前巡回講座の開催 ・ 「やさしい信濃の歴史講座」の上田市、松本市、箕輪町の他、1ヶ所で開催(新規)で開催(計年4回)。 ・ 「長野県の遺跡発掘2017」の伊那市、安曇野市での巡回開催に合わせた講演会等の開催する。 ・ 上記以外の出前講座 開催数90回 参加者数8,000人 ○ (新)おでかけ歴史館事業の実施 ・ 下伊那・木曾地域で公民館5件実施 (事業周知のため公民館職員等へのデモ活動も含む。) | (年報:P53) ・ 連携講座 飯田市美術館 1回 受講者集20人 豊科郷土博物館 2回 受講者数136人 (年報:P49) ・ 講師招聘「やさしい信濃の歴史講座」 安曇野市と飯田市の学芸員を講師として招聘 (年報:P54) ・ 考古学セミナー 6・3月開催(受講者数122人) ・ 近世史セミナー 12月開催(受講者数131人) ・ HPアクセス数 24,639件 | A | — | A | | | |
| | | (年報:P49・50) ・ 4回開講 受講者計299人 (上田市43人、箕輪町68人、諏訪市(新規)113人、松本市75人) (年報:P36、47・48) ・ 長野県伊那文化会館(伊那市) 講演1回27人、展示解説2回13人 ・ 安曇野市豊科郷土博物館(安曇野市) 講演2回136人、展示解説2回23人 ・ 浅間縄文ミュージアム(御代田町) 講演1回60人、展示解説1回6人 ・ 計 講演4回223人 展示解説5回42人 満足度98% (年報:65~68) ・ 100回 延べ参加者7,891名 (平成28年度121回9,532人、平成27年度74回4,278人) | A | ・若い二人の発表後、ベテランの発表、ドラマチックでした。(考古学) ・古墳に関する県下の最新成果を聞いて、大変有意義でした。(考古学) | A | | | |
| | | (年報:P60) ・ 希望者受入率 100% 博物館実習10人、県庁インターンシップ2人中・高生職場体験 14校44人 | A | — | A | | | |
| | | (年報:P58・59) ・ 希望者受入率 100% 教材研究研修(県総合教育センター) 17人 免許更新講習(信州大学) 3回 計142人 | A | — | A | | | |
| | | (年報:65~68) ・ 22回 延べ参加者818人 | C | — | C | | | |
| 学校教育を支援します | ○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの提供 ○ 学校見学時の展示解説の実施 ・ 希望校100%実施 ○ 学校見学時のバックヤード探検の実施 ・ 希望校の90%以上の受入 ○ 博物館実習・職場体験学習の受入 ・ 希望者の90%以上の受入 ○ 教員研修への協力、実施 ・ 希望者の100%の受入 ○ 出前授業(講座)の実施 ・ 実施30回 参加者1,500人 ○ (新)おでかけ歴史館事業の実施(再掲) ・ 下伊那・木曾地域で20回(1クラスを1回)実施 (事業周知のため教職員へのデモ活動も含む。) | ・ ワークシート(歴史館まなび隊・学習シート) 利用校145校 (利用率53.6%) | A | ・簡潔で分かりやすく活用しやすかった。 ・事前学習の資料として活用できた。 ・シート記入の時間があまりなく、見学を優先した。 ・画像がより鮮明だとよい。 | A | | | |
| | | (年報:P39~45) ・ 希望校受入率 100% 実施学校数259校 | A | ・子どもたちの実態に合わせて引率を配慮したり、解説を工夫してもらいありがたかった。 ・自由見学の時間を確保してほしい。 | A | | | |
| | | (年報:P39~45) ・ 希望校受入率 96.6% 実施学校数202校 (見学時間重複等でお断りした学校数7校) | A | ・本物の土器をもつてみる体験は、大変貴重で、体感的に学ぶことができた。 ・学芸員のしごとについて知ることができ、キャリア教育としても有意義であった。 | A | | | |
| | | (年報:P72) ・ アクセス数 83,979件 ・ ブログ更新 38回 | A | — | A | | | |
| 歴史情報を提供します | ○ 史資料の閲覧 ・ 整理が終了した古文書等の公開をすすめる。 公開した情報は、ホームページ、ブログ等に掲載、周知する。 ○ ホームページによる情報提供 ・ アクセス数(年間 72,000件) ・ ホームページ上で、絵図地図・企画展等の情報を提供する。 ○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」への連載 ・ 企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等への掲載) | (年報:P79~82) ・ 整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続を取り、ホームページ上でその都度データ更新をおこなった。 (公開件数10,198点、公開回数100%) 古文書公開ブログを10回更新し新資料の情報を県民に積極的に公開した。 | A | — | A | | | |
| | | (年報:P86) ・ コラムしなの歴史再現(信毎) 50回 (年報:P83) ・ 新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌・情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ、有線放送等で情報発信 | A | — | A | | | |

| 基本目標 | 基本目標に対する取組 | 主な事業及び目標値 | 達成値 | 自己評価 | 利用者評価 (アンケートで寄せられた意見) | 協議会評価 | 備考 |
|----------------------------|--------------------------------------|---|---|--|--|-------|----|
| 楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします | 参加して楽しめる場、憩える場とします | ○ 体験イベントの開催 ・ 出前イベント「縄文人になろう」を実施する。 (各会場で100人以上の体験を目標) | ・ 館内 3回実施 5月5日 「歴史館でこどもの日」(175人) 8月5日 「歴史館で夏休み」(77人) 11月3日 「将軍塚まつり」(572人) 計824人 館外 1回実施 7月26日「夏休み県庁見学イベント」(50人) 8月20日「伊那文化会館こどもまつり」(380人) | A | — | A | |
| | | ○ 親子映画会の開催 ・ 参加者 年間 600人 | (年報:P57) ・ 4日開催(3/20・21・23・24) 参加者数 計659人 | A | — | A | |
| | 県民が参画した館の運営を進めます | ○ 古文書愛好会の育成と活動支援 ・ 古文書講座受講者の半数の入会 ・ 参加者数 500人(延べ) | (年報:P61・62) ・ 入会率 26.2% (入会者49人/受講者187人) ・ 参加者数 延べ772人 ※活動内容 ・ 館蔵文書を読む会 7回開催 参加者数37人(延べ215人) ・ 古文書探訪会 参加者数28人 ・ 古文書演習(H29年度より活動日数を増やした) 夏季 7回 参加者数35人(延べ151人) 冬季 18回 参加者数29人(延べ378人) | B | ・ 超初心者の私ですが、班の先輩に手取り足取り教えていただき、毎回楽しく学ぶことができました。 ・ 今年は全く手のでなかった女性の手紙文を読んでいただき、努力すれば読めるようになるとの感じがしました。 ・ 一人ではとても勉強できませんが少しづつ進歩していると思う。 | B | |
| | | ○ 運営サポートボランティアの育成 ・ 展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。 | (年報:P62・63) ・ 募集 歴史館HP、チラシ(千曲市回覧、当館設置) ・ 新規登録者 3人 ・ ボランティア研修 5回 受講者数延べ 46人 ・ 解説ボランティア (解説者延数241人 利用者数1,243人) 日曜解説 毎日曜日、学校・団体への解説 17回 ・ 体験ボランティア(延数94人) こどもの日、夏休み、森将軍塚まつり、クリスマスリース作りで活動 ・ 作業ボランティア(延数23人) 木器処理作業 | A | — | A | |
| | | | | A | 解説ボランティアの声 ・ 館内放送聞いて参加した夫婦が楽しんでくれた。 ・ 質問を沢山していただいた。充実した案内ができた。 ・ 企画展の解説をしてほしかったようだ。 ・ 今までの博物館の中で一番楽しかったと言われた。 ・ こういうサービスがありがたいという様子であった。 ・ お客様から教えていただきとても楽しかった。 | A | |
| | ○ 利用者アンケートの活用 ・ 来館者アンケートの意見を反映する。 | ・ アンケート回答率 2.2% (前年度 1.2%) | B | ・ 講堂の席がせまい、テーブルのある会場で講座をやってほしい。 ・ 会場の空調に不満(寒い)。 ・ バス、電車、タクシーを頂きました。自由時間の多くあるシニアこそ詳しく観られるのに残念です。 ・ 全県各地での講座を増やしてもらいたい。 ・ 展示内容のレベルが高い、入館料は県立と言えど安すぎで、一考を要する。 ・ バスポート券は良かった。 | B | | |